

## 令和5年12月定例教育委員会会議録

令和5年塩尻市教育委員会12月定例教育委員会が、令和5年12月22日、午後1時30分、塩尻総合文化センター大会議室に招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 前回会議録の承認

#### 3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について  
報告第2号 1月の行事予定等について  
報告第3号 後援・共催について

#### 4 議 事

- 議事第1号 塩尻市塩嶺体験学習の家条例施行規則の一部を改正する規則  
議事第2号 学校職員の指導上の措置について<非公開>

#### 5 閉 会

#### ○ 出席委員

教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委員	徳 武 あ ゆ 子	委員	壘 剛
委員	八 島 思 保		

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部長	太 田 文 和	生涯学習部長	胡 桃 慶 三
こども教育部次長 (教育総務課長)	熊 井 美 恵 子	生涯学習部次長 (社会教育スポーツ課長)	田 下 高 秋
教育総務課担当 課長	五 味 克 敏	平出博物館長	小 松 学
こども課長	竹 中 康 成	市民交流センター 生長(図書館長)	上 條 史 生
家庭支援課長 主任学校教育指導 員	植 野 敦 司 村 上 啓	文化財課長	中 村 琴 江

#### ○ 事務局出席者

## 1 開会

**赤羽教育長** 皆さん、こんにちは。寒さがとても厳しくなってきた、子どもたちがどんな形で登校しているのかなということを思い、朝早く起きあちこち回ってきました。登校中の黄色い帽子をかぶった1年生3人組が、とても幅の広い歩道を私の横を駆け抜けるように走り去っていきました。

今月の31日まで年末年始の交通安全運動中でありまして、安協の方、警察の方、ある場所には校長先生、そしていつもの場所にはいつもの登校ボランティアの皆様方が危険な交差点や横断歩道の前に立たれて歩行者の見守りをされている姿が各地区で見られました。私はその姿を見て、本当に安心安全な、感謝いう気持ちを感じました。各学校では、本日から2学期終業式が順次行われ、子どもたちにとっては、家族や親戚と過ごす楽しみな年末年始の季節に入ります。

それでは、ただいまより12月定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

## 2 前回会議録の承認

**赤羽教育長** 次第に従いまして、2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

**佐藤教育企画係長** 前回、11月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますのでよろしくお願いいたします。

**赤羽教育長** 皆さん、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

**赤羽教育長** それでは、そのようにお願いいたします。

## 3 教育長報告

**赤羽教育長** 3番、教育長報告に入りますのでよろしくお願いいたします。今回は3点報告したいと思っております。

まず1点目ですけれども、最近児童生徒が活躍しているニュースがよく届きます。そのことについて報告いたします。第22回チラベルトカップ2023、長野県中学校新人サッカー選抜で、全県制覇で優勝しました塩尻西部中・広陵中合同チーム、このチームは、本当は明日から第11回の北信越中学校サッカー新人選手強化フェスティバル2023へ出場を果たしました。大会は明日から石川県七尾市和倉温泉を会場に行われる予定でしたが、先ほど審判員並びに熊井教育総務課長から中止という報告がありました。大雪のためだということのようです。ここに行くに当たりまして、20日に市長表敬訪問が行われて、塩尻西部中から9名、広陵中から16名、監督の先生方2名が来てくださり、自信を持ってうれしそうに報告してくれました。何より選手の顔がとても自由で、生き生きしているなということを感じました。決勝戦は、大会3連覇を目指している旭町中相手に4対0で勝利しました。北澤天斗主将、西部中2年生ですが、全員が全力でやれた、合同チームでも選手間の信頼の強さはどこにも負けない、勝利をつかんできますと、決意表明をしてくれました。

次に、日本中学校英語弁論大会県予選を兼ねました県中学校英語弁論大会で、27名出場す

る中で両小野中学校3年の白鳥怜さん、「ディス・イズ・ミー」と題して5分間スピーチをし、県内トップで優勝を果たしました。

また、高校・中学ビブリオバトル県大会中学校部門で同じく両小野中学校3年の横沢たまきさんが、7名出場する中、短編集「ZOO」の本の魅力を5分ほどのスピーチの中で語り、優勝を果たしました。

ほかにも来週ですが、少林寺拳法大会。小学校ロボコン大会で優勝した児童生徒の受賞報告で表敬訪問が予定されています。

この子たちの活躍は、本当に私もすばらしいなと思いました。今紹介しました子どもたちではないのですが、大多数の児童生徒は、優勝というのはなかなかできなかった、悔しいとか、かなわなかったなとか思いますが、でもそれが私はとても重要で、これからの大会、これからの人生にとって大きな財産になるのではないかなということを思います。私も振り返ってみまして、勝ったことよりも負けたり失敗したりとほうがとても多かったわけですが、今思うと、それがよき思い出となったり、自分の力になっていったのかなということも感じました。これが1点目です。

続いて2点目です。教育委員さんも行かれた方もあると思うのですが、12月2日、令和5年度の塩尻市豊かな心を育む市民の集いが開催されました。1部、2部になっていて、1部は松本人権擁護委員協議会塩尻支部10名の方の活動内容について発表がありました。

児童生徒に関わるものとしては、学校の先生や親には相談できない悩みを抱える子どもたちが気軽に相談できるよう全国の小中学生にこどもの人権SOSミニレターを配布して、その中で子どもたちから届いた手紙一つ一つに返事を書き、その悩みを解決に導く取組をされていました。あと人権の花運動、人権教室、中学校重点校、今年は広陵中学校と檜川小中学校の中での活動、それから全国中学生人権作文コンテストの作文審査などを行ったりしていました。この活動は、塩尻だけではなく松本部会や安曇野部会、東筑摩部会でも同様に子どもたちを見守ったりして応援しているという報告が1部でありました。

続いて第2部で「多様性とともにある社会へ」と題しまして、ダイバーシティ信州会長の茅野市役所勤務の小泉涼さんが講演されました。性の多様性ということで、LGBTQということで、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字を取ったもので、性的少数者を表す言葉として今はよく使われております。

小泉さんは生い立ちについてお話しされました。幼い頃からずっと違和感をおぼえながら成長していったということです。小学校に入学したとき、男子は青色、女子は赤色の運動着や上履きでした。何で自分は青色ではなくて赤なのだろうという疑問が芽生えたのだそうです。日本国内でのLGBTQの割合について、民間団体による調査ですが、人口の8%から10%前後がいるのではないかという通説になっているそうです。小泉さんは、これを学校で例えると30人のクラスがいたら二、三人いるのではないかと。小泉さんは、自分の周りにはいないと思っても、実は当事者はどこにでもいて、世間からの差別や偏見を恐れて声を上げられないだけだと、言われていました。周囲からの理解がなかったり、正しい情報にたどり着けなかったりして、自分だけ変だという孤独感とか、体と心が一致しないことでの非常に苦しい気持ちなど、性的マイノリティーの方の問題は孤立の問題でもあるということでした。

小泉さんが学校生活で困ったことベスト5をお話しされました。幾つか挙げると、宿泊学習のお風呂、健康診断、プールの着替え、制服で、1位はトイレが一番困ったそうです。近年全国で多様性に対応する制服のあり方が問われるようになり、最近ではそのことが主な制服改定の理由になるケースも全国的に増えています。性別でアイテムを絞るのではなくて、どの制服でも着用できるような選択肢を設けることが大事なのだそうです。選択肢を増やすことは、学校生活を送る上での不安を少しでも解消できる。小泉さんからその中で、具体的に菅野中学校と両小野中学校の制服、特に両小野中はモデルさんも入れた形で大きく写真で取り上げていらっしゃいました。

最後に、一部の人の問題ではなく、全ての人の問題として捉えていくことが大切であるとお話しされました。私はお話をお聞きしていて、性的少数者の生きづらさ、私たちの関わり方について考える貴重な講演会だなということを感じました。まず様々な違いを尊重して受け止めて、認め合って、多様な人が行きやすい学校、塩尻市にしていきたいと強く感じました。

併せて、各校の11月というのは、人権教育月間だとか旬間が行われていまして、この11月は人権について考える機会が設けられておりました。私も学校ホームページ、全部の学校を見たところ、全ての学校において学んだ大切な事柄を子どもたちの様子だとか、振り返りをしっかりして、それを学校からホームページを通して発信していました。校長会では詳しい資料を全部出したのですが、また見ていただいて、11月の活動のすばらしさといえますか、とても大事な月間かなということに改めて私は感じて、校長先生方に引き続きお願いいたしますとお願いをしました。

最後、3点目です。12月16日ですが、岡谷市やまびこ国際スケートセンターにおいて市民体育祭、冬季スケート大会、それから塩尻市・朝日村ジュニアスケート大会が行われまして、百瀬市長とともに参加してまいりました。この日は雨模様で、リンクは少し水が張っているような、氷はさわってみるとちょっと柔らかくなっている状態で、整備士さんが2台の大型の整氷機を使って表面の氷を削り取って、少しでも滑りやすいように整備していました。

このときの開会式の選手宣誓した方は塩尻の方で、81歳の西尾さんという方が選手宣誓されました。その全文を読ませていただきます。

我々選手全員は、全人類の代表としてここに参加できることは、スピード選手として最高の気分であります。今、熱く燃えています。本大会を開いてくださる役員、お父さん、お母さん、監督、コーチ、そしてリンクを作ってくださいました皆様に見守られ、大会ができることを心より感謝いたします。温かく優しく見守ってくれる中、選手全員一人一人が正々堂々とこの美しい400メートルのリンクを全力で滑走することをここに誓います。塩尻市スポーツ協会スケート部、81歳3か月、西尾。

この文を聞いて、立派な人生を重ねた方の宣誓かなと思いました。それを百瀬市長に向かって宣誓しました。大会前なのに、会場は大きな拍手が沸きました。西尾選手はシニア500メートルに出場され、しっかり氷を捉えて、堅実な滑りでゴールを切ることができました。私に、スケートをやれば5歳長生きできますよと、逆に選手から声をかけられました。

塩尻市・朝日村ジュニアスケート大会の部で、市内から参加したのは、1名であります。十何年前はすごい数の選手がいたのですが、今年は1名、あと朝日村が3名くらいですか、インフルエンザで2人ぐらい来られなくなったということで、それが小学生の数でした。本

市からは塩尻東小学校男子の3年生の子ですが、聞く毎週二、三回の練習を地道にこなして、物静かな子でしたが、リンクに立つと、顔色が変わって、フォームが見事で、よく練習しているなどということを感じました。氷の状態が悪い中、コーナーに入ったら、スピードに乗れないというところで転倒してしまいました。すぐに立ち上がって、また見る見るスピードを上げてゴールしました。その姿に、私はたくましさを感じました。これからも好きなスケートを続けて、自分の夢に向かって挑戦してほしいなと思いました。お母さんが応援に見えていました。そして学校からも1人、スケート担当の先生が、その傍らですっと応援されていました。

報告に関しましては、以上3点になります。委員の皆様から御質問、御意見、そのほかイベント等に参加された内容におきまして意見、感想等ありましたら報告していただきたいと思っております。では、よろしくお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** 先月行われたこんにちは教育委員会、その関係についてお願いいたします。今年度、広陵中学校と片丘小学校を訪問させていただきましたけれども、教育委員にとって、校内や授業を見せていただいたり、現場の先生方と懇談したりすることは、ふだんはなかなかできないわけでありまして、特に現場の先生方の生の声をお聞きすることは大変貴重な機会になったと私は思っています。

最近も、市内保育園児のやけど事故についての報道があったわけではありますが、こんにちは教育委員会のグループ懇談の中で、先生方は、様々な意見を出されるわけですが、主として、子どもの学習や生活の視点に立った施設設備や教育支援についての改善点や要望であると私は感じています。別の言い方をすると、こんにちは教育委員会の機会は、現場の実情を把握しやすくなるので、子どもを守ったり育てたりする上で有意義な場になっている、そんなふうに思います。

現場の先生方は日々多忙で、特に中学校の11月は、進路関係の指導だとか会議等で立て込んでいてとても忙しいと思いますけれども、市教委事務局からも、それぞれの部署から出ていただいておりますので、ぜひ御理解いただいて、今後もこんにちは教育委員会が、子どもたちにとって一層充実したものになることを希望したいと思います。

また、そういう場でも出されるのですが、安全・安心面については、学校に限らず、可能な限り改善を図っていただきたいと思っております。以上です。

**赤羽教育長** ありがとうございます。今、学校訪問が出されましたので、関連して、まずそのところであれば出していただきたいと思っております。

**徳武委員** 学校訪問、ありがとうございます。先生方のお話を聞いて、やはり施設の設備の問題、何点か頂いたのですが、特別教室にエアコンがないというのを先生たちはすごく気にいらして、子どもに何かあってからでは遅いということを、今年はとても暑かったので特に言われました。やはり特別教室というのは、どうしてもエアコンの設置は後になってしまうのかなと思いましたが、できるだけ早く対応していただきたいなと思いました。以上です。

**壺委員** ほとんどの先生から施設関係の話が出て、エアコンに関してもそうですけれど、同じような意見がありました。

片丘小に関しては、コミュニティ・スクールに関わる地域の人たちが大変力強くサポートしてくれているということで、ホームページにもたくさん載っていますけれども、うまいこ

と回っているなというのを感じました。ただ片丘小学校の場合1クラスなので、人数が多くて大変そうでしたけれど、先生も児童も楽しそうにやっていたという印象がすごくあったので、よかったなと思っています。

**赤羽教育長** ありがとうございます。

**八島委員** 教育長と教育委員の方々と重複する報告にもなりますが、11月是人権月間であり、幾つかの人権活動を拝聴、参加させていただきました。

まず、今話題とされました、こんにちは教育委員会に参加させていただいた片丘小学校の訪問について御報告させていただきます。3学年の道徳授業につき感じたこととなりますが、通しで参観はできませんでしたが、特に印象に残ったことは、「かるたを楽しく遊ぶには」をテーマに、後片づけについての話し合いでした。児童の意見は大きく3つありました。①かるたを全員で片づける、②遊んだ人たちが片づける、③係が片づける。さて何番目が多かったと思いますか。

**赤羽教育長** ①だと思う人がいるかもしれない。

**八島委員** そうですね、王道は①または②ですよ。この授業の中では、③の係が片づけるという意見を出した児童への賛同はありませんでした。もしかしたら同じ意見の児童もいたのかもしれませんが、多数決では圧倒的に②が多かったです。その後どんな展開になったと想像されますか？

児童たちは、てんでばらばらに、③の児童に対し「係を決めて片づけさせるのはかわいそうだよ」や「何で遊んでない人が片づけなきゃいけないの」や「嫌だ」など、アンチな声を上げました。

先生は、③の意見を出した児童に対し「みんなはこんな風に言っているけど、〇〇君はどう思う」と尋ねました。〇〇君は小さな声で「それでも僕は変えない…」と言ったのです。けれども、その声は先生に届かなかったのでしょね。先生は「〇〇君は考え中なのね」と言ったのです。結果、「楽しく遊ぶには遊んだみんなで片付ける意見が多かったですね」と少し曖昧な形で終了のチャイムが鳴りました。

マジョリティーとかマイノリティー、あるいはダイバーシティな社会。塩尻市が目指している教育振興基本計画には、多様性の理解と多く述べられています。この授業は、ダイバーシティを知るきっかけとなれる構成になっていたと思いませんか？私はそう感じられました。

マジョリティーや集団的なルール、いわばマスづくりであり、日本人の特有な精神性を育成する授業展開となってしまうことが、学校道徳であるのだなと感じました。こうでなければならない、こうしなければならない、マスから外れる意見は、例えば③の児童のような意見は、なかなか声が通らず響かない。礼儀、分別、道理、調和といった、人に迷惑をかけてはならない。その精神教育なのです。

ですが、もう少し考えてみてください。そもそも児童からは、この3つの意見しか考えが浮かびませんでした。このイメージ力の乏しさ、発言力の抑制こそ多様性として捉える事こそが道徳であると感じました。例えば、片づけない、といった意見があってもいい。または気づいた人が片づけるといった意見があってもいい。そんな素直な意見が勃発するような道徳の授業こそが道徳なのではないですか？

そして何よりも③と発言した児童が、歯を食いしばりながら小声で「僕はそれでも変えない」と言ったその思いに寄り添ってはしかったと感じました。人は1人では生きられない。だからこそ人に迷惑をかけずして、人との調和を図っていくというやり方と、人に迷惑をかけてでも、ほかの誰かに甘えてもいいんだよと、人と人とのつながりの壁を低くする、コミュニケーションの垣根を低くしていくことで、人目を気にしないフラットな感覚が生まれるのかもしれない。

相反するようではあるのですけれども、実は共に生きている。気遣いの違いであって、人に対する思いやりはイコールであると思います。③の児童の気持ちも取り入れながらみんなできれば深みのある授業になったのかなと感じました。道徳の授業に教科書は不必要なのかもしれませんね。教育機関として今後検討願えたらと思います。

続いて、先ほど教育長からの御報告もありましたレザンホールで行われた「豊かな心を育む市民の集い」に私も参加させていただき、ダイバーシティ信州会長の小泉涼さんの講演を聴講させていただきました。LGBTの基礎知識から社会的動向、そして自身の歩みから社会への願いとLGBTへの理解の強い決意をお話しされていました。中でも、先ほど御報告がありましたが、LGBTまたはSOGIの割合というのは7.6%程度で、13人に1人の割合でいらっしゃるということでした。血液型で言うと、AB型の割合と同じぐらいだそうです。

学校生活で嫌だったことは、先ほど教育長のほうからのお話にありましたが、思春期への移り変わりで感じる魂と体の不適合のいらだちと羞恥心、そして存在そのものへの不信感であった話を聞きながら、自分自身との対話の恐怖を想像すると、どれだけ苦しい日々をお過ごしになってきたのだろうかと思い、私はとても胸が熱くなりました。私にできることは、もちろん察し力も大事なことです。少しでも環境を変化させていけるように、変化の風を心地よく吹き流し続けていくことができればよいなと感じました。

後日、保健主事・養護教諭合同研修会でLGBTの児童生徒への対応と配慮をテーマにした講演会に参加しました。そこでも小泉さんにお会いすることができ、またもう一方、田村彩乃さんも講師を招いて研修会が行われました。

そこではお二人の成長過程での戦いを体験談として語ってくださいました。特に田村さんは、子どもの頃は希望的感覚があり、妄想や想像から、いつか自然に自分が変わっていけるものだと思っていたらしいそうです。しかし、二次性徴が始まり、絶望を感じたそうです。幼少期は、親が何とかしようとひどく正され心理的な虐待を受け教師からの差別によりとても苦しい日々を過ごされたそうです。

田村さんは、生きていくために、どうやって生きていくのか、いかにして自分は自立していけばいいのか、経済的にも精神的にもどう自立をしていくのか、常に人間としてのスキルの向上に貪欲であり学び続けたとおっしゃっていました。行き着くところというのは、やはり人間性であって人格であると。一生懸命生きたことが自分自身の救いになり、潔く堂々と生きていますとおっしゃっており、その言葉はとても力強かったです。

教育現場としては、どの子も分け隔てなく接すること。過剰に守るのではなく、ほかの子と同じように接すること、優しくすることは必ずしも当事者にとって幸せなことではない。分け隔てなくが大前提であり、学校での合理的配慮であると話されました。

いろいろなやり方、いろいろな考え方があります。先ほどの道徳の授業と同様に、共に生

きるには、人との関わりの垣根を低くして、もっと遠くを見回して、隠さない、隠れない、受け入れる。少し角度や高さを変えて、大人自身が変わりながら、全ての子どもが堂々と生きる市に進んでいけたらよいなと思いました。以上です。

**赤羽教育長** 学校訪問を通して子どもの姿から感じられた意見というのは、とても貴重ななということを感じました。続けて熊井教育総務課長、学校訪問の意義とか、そのあたりでありますか。

**熊井子ども教育部次長（教育総務課長）** 日頃は校長先生とお話しすることは多いのですが、他の先生方と直接お会いして、御意見、要望をお聞きする機会はないものですから、対面でお話をお聞きすることは、学校の日常を知る有意義な機会だと思っています。お話を聞きする中で、すぐに対応できるものは対応していきたいと考えますし、多額の費用が必要なものにつきましては、計画的に対応していかなければならないと感じております。

**赤羽教育長** ありがとうございます。佐藤係長、学校訪問について、担当というか、何か感じたことをぜひお願いします。

**佐藤教育企画係長** 私が感じたことは、教育委員会と先生方が直接御意見を交わす機会はなかなかありませんので、同じ物事に対する視点の違いというものを感じることができるという点が、一番有意義なのではないかと思っています。先生はこう思っていた。けれども、教育委員会ではそのように受け取っていないということを、直接話せることで見解の相違を解消できたこともありました。足りていない情報についてご説明することにより、先生方の御理解を得られることもありますし、我々も現場目線のご意見をお聞きして、勉強させていただくということもありました。

**赤羽教育長** ありがとうございます。これはずっと昔から続いているわけではないのですよね、この形式は。

**佐藤教育企画係長** 15年くらい前に始められたものだと記憶しております。

**壺委員** 結局、施設を整備するとなると、予算という話になりますが、自分が塩尻中学校のPTA会長をやったときに、PTAで費用を作ろうということで、100万円集めようと目標をたてました。アルミ缶回収もそうですし、資源物回収もバザーもそうです。結局、76万円くらいしか集まらなかったの、目標には届かなかったのですけれど、例えば先生たちの中で、今はやりのクラウドファンディングとか、ふるさと納税で支援をお願いするとか、他県の公立の中学校でもそういった活動があったりするので、何かもう少し自分たちで工夫をしながら、できることを皆さん自身が考えて活動していくということを少し考えてもらってもいいかなと思いました。同じ先生たちがそれくらいのことを普通にやっているの、ぜひ市内の先生たちも要望だけ出すのではなくて、自分たちでできることを考えて動いてほしいと思います。

**赤羽教育長** そのほか、ございますでしょうか。

**徳武委員** 人権の週間のことで、私も小泉さんの講演会に行ってきました。また、同じ時期に塩尻西部中でも性の多様性の講演会があって、私は聞けなかったのですけれど、感想を頂いているので、とても興味深く見たのです。11月27日に当事者の田村綾乃さんをお迎えして講演会を実施したそうです。

今回、12月2日の小泉さんもそうですけれど、私も当事者の方のお話を聞くのは初めてで、多分生徒たちも当事者の方のお話を聞くのは初めてだったのではないかと思います。たくさ



ん質問やメッセージを頂いたということで、それに丁寧に答えて頂いて、学校に掲示してあるということなのですからけれども、それだけ質問が出るということは、子どもたちも興味を持って聞いたと思うのです。先ほど、小泉さんのほうのお話では、クラスに大体1人、2人、田村さんのお話の中では、左利きの人と同じくらいいるのだよということ、分かりやすく講演会では教えていただいたそうです。

生徒の感想の中に、「自分も相手を尊重できる人になりたいです」。あと、これが一番かなと思ったのですが、「講演を聞いて、いろんな人がいて当たり前で、何かに当てはめる必要はないなと思いました」という感想が一番、生徒が分かってくれたのだなということがよく分かる感想なのではないかと思いました。

私が、小泉さんの講演会で一番印象的だったのは、LGBTは悪いことでも障がいでもない、特性であるということで、病気とか、特別な目で見ないでほしいというところが、一番印象に残ったことです。やはり当事者の方のお話を聞くというのは、一番それを身近に感じることでありますし、子どもたちがまだ10代のうちから、こういう方のお話を聞くのは、とてもいい経験になったのではないかと、とても興味深く思いました。以上です。

一点お願いとしましては、塩尻西部中の講演会ですが折角の機会でしたので、保護者の方も聴講ができればよかったですかと思いました。

**赤羽教育長** ありがとうございます。

**碓井教育長職務代理者** 別の点で2点お願いいたします。1点目は、檜川小中学校の小規模特認校制度に関連してであります。市の広報の12月号に、檜川小中学校の特集記事が大きく載っていて、小規模特認校の説明や現在の教育活動の様子、校長先生の思いなど、義務教育学校としての檜川小中学校の実践や今後の方向を興味深く読ませていただきました。記事の内容から、校長先生をはじめ関係の皆様御尽力によって、開校以来、学校が順調に進んでいることが感じられました。

QRコードがついていたので、そこからアクセスしてホームページや動画も見させていただいたのですが、子どもたちが前向きでとても学校に期待をしているという感じをもちました。また、特認校として、ほかの地域から子どもたちに来てほしい、仲間を増やしたいという思いを子どもたち自身も持っていて、私もそういう方向に学校が向かっていけばいいなと思いました。

檜川小中学校への入校条件等も記事に載っていたのですが、今の状況はどんな様子なのか。11月30日に申込締切りということもホームページに掲載していましたが、そのような点について、今後の状況も含めて教えていただきたいと思っております。

それから、もう1つ、檜川小中学校とは別ですが、塩尻西小、桔梗小の調整区の動きはどんなふうになっているのか、そのような点も併せてお願いできればと思います。

それから、2点目は、公民館活動についてなのですが、12月中旬の新聞に、12月2日と3日に、市の中央公民館で日本公民館学会の研究大会が開かれて、市内の原新田分館の活動や、市の社会福祉協議会との連携を発表し、コロナ禍においては塩尻市の取組が群を抜いていて、とても高い評価を得ているという記事がありました。

公民館では、子ども向けの取組だけを見ても、今年の夏も幾つかの公民館で勉強会を開催していただいたり、サマースクール公民館の活動を広げていただいたり、本当に有意義な活動をしてくださっていると、私は思っております。公民館活動は地域住民にとって大事な活

動の場だと思いますが、分館の中には、様々な事情があって、活動がなかなか進まないとか、コロナ禍を経て、引き継ぎがうまくいかなくて、今までやってきている伝統的行事等も厳しいというような声も若干聞こえてくるわけであります。このような状況については、私たち地域住民の意識の持ち方についての課題もあるかと思っておりますけれども、その辺、分館を支える住民に対する支援というものについてはどんなふうになっているのか、少しお聞きできればと思います。以上、2点であります。

**佐藤教育企画係長** 小規模特認校につきましては、11月末締切りということで、体験入学等を経て、5名のお子さんから申し込みがあったと聞いております。また、定員にはまだ余裕があり、4月までには時間がありますので、相談や通学の希望があれば引き続き受けたいと思っております。

塩尻西小学校と桔梗小学校の選択地域につきましては、1月に指定通知が出るまで期間がありますので、確定数字ではないのですが、現時点で、2件か3件ほど、塩尻西小学校への通学を希望する申出があると聞いております。

**田下社会教育スポーツ課長** 公民館学会の全国大会、私は、豊かな心を育む市民の集いがあったものですから、直接参加はできていないのですが、新聞記事等で拝見させていただきました。御質問の分館活動の停滞の部分についてはなのですが、現在、地区館、それぞれの10地区に公民館主事、職員が1名ずつおります。中央公民館の声かけも強化しながら、10地区の公民館主事がそれぞれの分館、それぞれの区であります公民館活動の活動支援を強化してほしいということで取組を進めておりますが、やはり公民館活動自体は、自主性を持ってやっていただくものになります。地域の求めているものに支援の手を差し伸べて、これもやりましょう、あれもやりましょうというのは本末転倒なので、アドバイスをしながら、やる気になっていただいたところから徐々に支援をしていくというような姿勢で、これからは取り組まざるを得ないのかなということは感じております。答えになっていない部分もございしますが、申し訳ございません。

**赤羽教育長** よろしいですか。

**碓井教育長職務代理者** ありがとうございます。

**八島委員** 私が館長であった頃は、コロナ以前でしたので、様々な活動ができていました。確かに私が残した足跡が現在の公民館活動に受け継がれているか否かでは、否であると感じます。分館活動につきましては、自主性というのはもちろんありますが、コロナ期間によって、受け継ぐことに気落ちしてしまった印象はあります。逆に各地域で小さな集団や活動が芽生え始めている印象もあります。

このような小さな集団を芽生えさせる大人社会の現状と、逆に子どもは少子化により、各地区で減少傾向にあり、大人が創り出す小さな集団の中に入る子どもの人数は限られ特定化してしまう。大人社会のコミュニティーの作り方や場所づくり、子ども社会が好むコミュニティーのネットワークは、相反しているのかもしれませんが。反対な社会現象が地域コミュニティーには生まれているのかなと感じます。ですから、学校を核にした形で、地域が集結しあえるような活動が、今後、芽生えていくと、希薄性が解消されるのかなとおもいます。

**赤羽教育長** ありがとうございます。

**碓井教育長職務代理者** 公民館活動は、やはり自主性とか自発性がとても大事で、一番の根本

になる部分だと思います。でも、状況に応じて、そのところを掘り起こしていくような何か仕掛けをしていただく。今、八島委員がおっしゃったように、学校を核にしてやっていくとか、何か仕掛けていただければありがたいなと思うのですが、よろしく願いいたします。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** 何か月か前に、5月に公民館研究集会 をやりましたという御報告をさせていただきました。その中でも、分館の役員の皆さんも、どうやって活動していったらいいかが見えない状況で、情報交換をする中で、じゃあ見させてくださいという個のつながりの中で活動を広げていく取組になるような仕掛けもやっております。そういった部分をあまりこちらから、また勉強会をやるので出てきてくださいという機会を増やしすぎるのも難しいところもあるので、定着化している公民館研究集会などを通じまして、取組を進めてまいりたいと思います。

**徳武委員** 質問いいですか。やはり公民館活動で、コロナ前にずっと続いていたものがなくなって非常に残念だという話を私も聞いていて、そういう場合だと、どこに相談したらいいのですか。素朴な疑問です。ぜひ活動したいのですけれどという方がやはりいて、そういうときは主事さんに頼めばいいのか、どちらにお願いすればいいのかということ聞いたことがあるのですけれど。

**赤羽教育長** 続けてお願いします。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** なくなってしまった行事によると思うのですが。

**徳武委員** 行事というか、サークル活動みたいなものだったらいいのですけれど。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** 公民館の活動の中で、何々の講座をやりました。では、もっと深いところまでみんなで探っていこうよというところで、それぞれサークルができてきた経過があるので、そのサークルをまたコロナ前と同じようにやりましょうという声かけは、なかなか公民館主事のほうでも全てのサークルを把握しているわけではないので、難しい部分もあろうかとは思いますが。しかし、それぞれ地区の中の情報を主事が持っておりますので、答えが出るかどうかは別として、一度相談いただくのが一番いいのかなとは思っています。

**徳武委員** 分かりました。では、またそのように聞いてみたいと思います。ありがとうございます。

**赤羽教育長** ほか、よろしいでしょうか。

**徳武委員** 大丈夫です。

**齋委員** 今日、またホームページのことを話そうと思って6件ぐらい持ってきたのですけれど、2件だけにします。何かほっこりするような話題とか、ホームページを見ると結構多くて。

その中でも12月4日に洗馬小学校のホームページに載っていた給食の内容なのですけれど、ベトナム料理を給食用にアレンジして提供しましたという記事。バインミー風フォーのスープ。カフェスタ風牛乳。バインミーはベトナムの料理だと知っていますけれど、なかなか普段生活をしていて食べられないものを自校給食ならではのアイデアで、今日はベトナムの給食だよ、みたいなことが子どもたちに教えられる。やはり1つの自校給食のいいところかなというふうに思って、すごくうらやましいなと思いました。

もう1件は12月5日の宗賀小学校で、コミュニティ・スクールの皆さんに感謝を込めて

カレー会を行いましたという記事なのですけれど、ジャガイモやニンジン、バケツで栽培したお米、今年はどっさり収穫できました。1年生から6年生、力を合わせて作ったカレーは野菜がごろごろ入った、おいしいカレーになりました。コミュニティ・スクールの皆さんも、「おいしい、おいしい」と、とても喜んでくださいましたということで、子どもたちが感謝を込めてコミュニティ・スクールに関わった方々にカレーを作ったという、何かすごくいい話だなと思いました。しかも、1年生から6年生まで自分ができることを、感謝を込めて地域の人たちにカレーを提供したという、すごくいい記事だなというか情報だなと思って読ませていただきました。この他にもたくさん良い記事がありました。今日は2件だけにします。以上です。

**赤羽教育長** ありがとうございます。今日は、たくさんいろいろな角度からお話があって、それが絡み合って、ぐっと深まってありがたいなと思いました。ありがとうございます。では、次に行きたいと思います。よろしいでしょうか。

### ○報告第1号 主な行事等報告について

**赤羽教育長** それでは報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料1ページから7ページです。事務局から主要な行事について説明をお願いします。

**上條市民交流センター長（図書館長）** 1ページ下段、11月23日、木曜日の欄です。中学・高校ビブリオバル長野県大会を市民交流センター3階多目的ホールで、実行委員会と共に開催いたしました。県内から高校生・中学生23人が参加しまして、予選、準決勝、決勝と行いました。中学生・高校生が薦めたい本の紹介を5分間語り、質疑応答し、一番読みたくなった本を投票していただきチャンプ本を決定するという内容の大会でございます。

いずれもレベルの高いバトルが繰り広げられまして、チャンプ本が決まりました。中学生の部のチャンプ本は、両小野中学校の生徒が選出されました。3月に行われます全国大会への出場権を得たということでございまして、数日前に市民タイムスにも記事が掲載されましたので御覧いただいたかと思えます。子どもたちが読書の楽しさを自ら表現し体験する、とても有意義な催しであったと受け止めております。

続きまして、2ページの下段。11月26日、日曜日に信州しおじり子ども本の寺子屋の子ども向け講演会として、落語の催しを開催いたしました。昨年度1回目を開催いたしまして大変好評を得た内容でございます。社会人落語家をお招きして、落語に加えて落語に関するワークショップも併せて行っていただきました。52人の参加を得ました。

続きまして、4ページの下段を御覧ください。12月9日、12月10日の2日間、第8回こどもしおじりを開催いたしました。市民交流センター3階を中心に子どもだけの街を開きまして、子どもたち158人が参加し、体験的な学びをするこの講座が、コロナ禍前に戻りまして多くの参加を得て行いました。市長、教育長との懇談の機会、また市長室、議場の見学なども行いまして、大変有意義な会になりました。

**赤羽教育長** ありがとうございます。続けて。

**植野家庭支援課長** 続きまして、こども教育部の行事報告をお願いいたします。6ページからになりますけれども、児童虐待防止推進月間ということで、10月28日からになっていますが、11月が児童虐待防止推進月間となっております。様々な広報活動を行って啓発に努めてまいりましたが、その中でも今年3年目になりますが、市内の高校、今年は志学館高校と東

京都市大学塩尻高等学校の2校でございましたけれど、書道部に啓発用の書を書いていただきまして、総合文化センターに掲示をさせていただきました。

10月28日にはハッピーハロウィンで、チラシと合わせてクッキーと一緒に配らせていただきましたけれども、子どもたちにも直接手渡ししまして、何かおうちであったらお知らせしてくださいねとか、友達に何かそういうことがあったらお知らせしてくださいねというようなそんな形で啓発をすることができました。乳児院の方2名に来ていただきまして、有意義な啓発活動になったと思います。

続きまして、11月23日でございますが、元気っ子講演会ということで、信州大学医学部子どもこのころの発達医学教室教授であります本田秀夫先生をお招きいたしまして、「みんなと違う」自分を大切にする方法～10代からのメンタルケア～ということで御講演をいただきました。当日、60名の参加と合わせまして7名の小中学生の参加がありました。今回は、小中学生もぜひお越しいただきたいということで案内をさせていただきました。

また、本田先生は子ども向けにも本を書いていて、その中からの講演の内容になりましたので、非常に分かりやすい講演になりました。参加者はお子さんであったり保護者であったり支援者の参加もありましたけれども、それぞれの立場で学びがたくさんありました。

その中で、少し私も幾つか心に残っているところを御紹介させていただきたいと思います。仲のいい友達が1人しかいないというお子さんに対して、友人関係をどう考えたらいいというようなところですけども、本田先生からは、友達付き合いは運で決まるようなところがある。気の合う相手がいなときは、無理に誰かと仲良くしなくてもいいというようなお話がありました。いい友達運をつかむコツは自分を大事にすることというようなお話もありました。

また、人の話をちゃんと聞けないお子さん、授業とかいろいろな場面であろうかと思えますけれども、本田先生からは、聞いているように見えるか、聞いてないのかというのは、大事なものは態度より中身ですというお話。本田先生は、また合わせて、反対に態度しかよくない人もいますというお話で、挨拶ということもよく言われるのですけれども、挨拶しかできない人もいる、中身を大事に捉えてくださいねというお話を頂きました。

本田先生のお立場は、いろいろな個性や特性はあっても、それによって居づらくなってしまつて二次障害を起こすことが非常によくないということで、自分の持っている個性や特性を大切にしながら関わっていきましょう、生きていきましょうというお話でございました。以上になります。

**赤羽教育長** ありがとうございます。それでは、委員の皆様から質問や御意見がありましたら、お願いいたします。

**徳武委員** 私は今、お話がありました元気っ子講演会に行ってきました。私は本田先生のお話は初めてだったのでですけども、小学生・中学生の参加もあってよかったなと思いました。先生も小中学生向けにわかりやすくお話しして下さったので、聞いていてもとても面白かったですし、時間が過ぎるのがあつという間だったと思います。いろいろな特性を持った方がいるということで、その中でも早いうちに自分の特性が分かると自分も生活しやすくなりますし、あと周りの対応もそれに応じて変わってくるのではないかとこのころが、私は一番よかったかなと思いました。

最後にアンケートがあつたと思うのですが、小中学生の方から何かありましたか。

ちょっとその辺が気になります。

**植野家庭支援課長** 当日、質問ありますかという答えを遠慮されて、子どもさん答えにくかったところもあるのですが、アンケートを保護者と一緒に書いて、皆が皆書いてくださらなかったと思うのですが、多分子どもの書いたであろうものが幾つかあったかなと思いました。

**徳武委員** ありがとうございます。当日、皆の前で何かありますかみたいな質問を受けていたのですが、やっぱり恥ずかしそうにしていたのが印象的だったけど、わざわざそこに参加したということは、何か感想があったのではないかと考えていました。とてもよかったと思います。以上です。

**赤羽教育長** 続いてございますか。

**壺委員** 私は12月9日、10日にこどもしおじりがあり、10日に市長と教育長さんと一緒に回らせていただきました。今回私も初めて議場に入らせていただきましたが、子どもたちも議長席に座って、そのとき実際に参加されていた市議会議員さんの名前「石井勉議員」とマイクでしゃべってみたりとか、楽しい時間を過ごしました。また最近では、YouTubeで議会を配信しているのですが、カメラワークとかも、こういうところで操作しているのかと知ることができ、とても勉強になりました。

びっくりしたのが、こどもしおじりでは、実際に子ども自身が市議会議員に立候補するための立会演説ってやるのですが、一人一人の意見がどうしたいとかこうしたいとか、去年まではこうだったけど今年はこうしたいとか、すごく具体的にはっきりと演説をしていたのが印象的でした。ぜひ、この子たちが大きくなったら塩尻市に戻ってきて塩尻市をつくってもらいたいなと思いました。特に、もう何年も参加していて、今年最後なんですって言っていた中学1年生の男の子と女の子は、いろんなことを考えて、どうしたらうまく回るのだろう、市がつくれるのだろうということを熱く語っていたことが、すごく期待しちゃうなと思って参加させていただきました。

**赤羽教育長** スタッフの方は、過去こどもしおじりを経験した子が、高校生になったり大学生になったりして、今度は自分が子どもたちを迎えるお子さんもたくさんいたこと。それから、立候補するに当たり、議員さんは月に1回、1年で12回ぐらいかけて打合せして、ただイベントに出るだけではなくて、つながりというか人間関係もそうですけれど、本当に言っていることが地についていますよね。次回よりもさらにアップデートが必要、そういう形の流れで、わおんさん、山田さんも手ごたえをさらに感じているというようなお話もお聞きしました。ありがとうございます。

続けて、ございますか。

**八島委員** 私は12月9日みんなのがん教室に参加させていただきました。がん教育を学校教育の中に今後どのように進めていき浸透させていくのか、健康と命の大切さの認識をどのように深めていくのか、予防医学の取り入れていくことも大切であると思います。がん教育というネーミングは特化性があり、健康と命とのイメージになりにくい可能性もあります。今後どのような形で進められていくのか興味深いところではあります。現在どのように行われていますか。

**赤羽教育長** 西小で当事者を呼んで。

**熊井子ども教育部次長（教育総務課長）** 今年度、がん教育を進められている「がんサポートおむすび」の小口さんに、西小学校で講師を務めていただきました。市内全体での浸透はまだまだこれからと感じておりますので、学校とも相談する中で、どのように進めていくのが効果的なのか検討していく必要があると考えております。

**赤羽教育長** 保健体育の教科書にもしっかり位置づけられていて、だから教科書じゃなくて実際に。

**八島委員** がん教育をしていくことが文部科学省で決められてきています。

**赤羽教育長** がん予防ですね。

**八島委員** 予防ですよ。健康と命を認識していくことであると思いますが、そこにイコールがんであると、少し衝撃強いイメージであると思っはいますが、その辺りをどのように結びつけていくのかが、課題であると思ひ、興味深く関心を持っています。各校で機会があれば参加させていただきたい思ひます。

それから、先ほど元気っ子講演会で、徳武委員がアンケートについてご意見されましたが、例えばQRコードなどを添付し、デリケートなことであっても、子どもたちは後でそっとアンケートの記入ができたのではないかなと思ひました。参加者全員がスマホ持っているとは限りませんが、少しデリケートなテーマである講演会では、そのような配慮があつてもよいと感じます。

**植野家庭支援課長** どういうふうにも子どもに用紙を渡したのかとか、その辺まで把握できてなくて申し訳ないですけど、来年は子ども向け、子どもさんも参加できるような講演会にしたいなという話をしているので、工夫をしていきたいと思ひます。

**八島委員** 1つ出入口に設置してもよいですよ。

**植野家庭支援課長** そうですね。親も一緒に来ているので、工夫をしながら考えていきます。

**赤羽教育長** よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、次に進みたいと思ひます。

## ○報告第2号 1月の行事予定等について

**赤羽教育長** 報告第2号、1月の行事予定についてお願いしたいと思ひます。8ページ、25日に定例教育委員会・協議会があります。それから、本の寺子屋講演会、平出遺跡公園ライトアップなどの行事もありますので、委員の皆様、御都合つきましたらお願いしたいと思ひます。中身見ていただきまして、御質問等ありましたらお願いいたします。

**委委員** 二十歳のつどいの企画・運営というのはどっち側がやるというか、子どもたちがやるのか、行政がやるのか教えてください。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** ここ数年、実行委員を募集してもいないというのがずっと続いていたのですが、いない場合は行政主導で式典のみという形をとつておりました。今年度につきましては、実行委員2人手を挙げていただきましたので、実行委員の皆様と一緒に、共に式典等の準備をさせていただいております。

**委委員** ありがとうございます。

**赤羽教育長** よろしいでしょうか。そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。次に進みます。

### ○報告第3号 後援・共催について

**赤羽教育長** 報告第3号、後援・共催についてですが、資料9ページであります。教育総務課の受付番号46ですけれども、承認日が漏れておりました。空白のところは12月14日と御記入ください。すみませんでした。では、見ていただきまして、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、次に進みたいと思います。

## 4 議事

### ○議事第1号 塩尻市塩嶺体験学習の家条例施行規則の一部を改正する規則

**赤羽教育長** 議事第1号、塩尻市塩嶺体験学習の家条例施行規則の一部を改正する規則、資料10ページから14ページです。事務局から説明をお願いします。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** それでは、塩尻市塩嶺体験学習の家条例施行規則の一部を改正する規則でございます。改正の理由でございますが、条例の一部を改正することに伴いまして必要な改正を行いたいものでございます。

2番、改正の概要ですが、次ページ、11ページからをお願いいたします。新旧対照表をつけさせていただいておりますが、まず11ページの改正前、2条、3条につきましては、休館日と使用時間につきましては、改正後では空欄となっております。この部分につきましては条例で定めたいため、削除してあるものでございます。

続きまして、改正前の4条以降でございますが、市長、教育委員会の部分に下線が引いてありますが、改正後では指定管理者という規定に改正をしたいものでございます。これは、これまで行政で運営していた施設を指定管理者に行わせる施設として規定するため、規則もそのように改正をしたいものでございます。また併せまして、使用料とうたわれているものを利用料という形で改正をしてございます。そのほか下線部分につきましては、条項の入替え等になりますのでお願いいたします。

お戻りいただきまして10ページ、3番の施行日でございますが、条例の施行日から施行するとさせていただきますと思います。説明は以上となります。

**赤羽教育長** 今説明がありましたことに関しまして委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

**壺委員** ちょっと理解ができない部分があつて、指定管理者というのは具体的に誰のことですか。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** 説明不足で申し訳ございません。指定管理者制度という制度が、平成15年から地方自治法の改正により、公の施設の運営を民間事業者に行わせることができるようになりました。その制度のことを指定管理者制度といたっておりまして、塩嶺体験学習の家につきましても、行政の運営から維持管理等施設の運営を民間事業者に行わせる施設として改正をしていくものでございます。

**壺委員** その民間管理者というのはもう決まっているわけですか。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** 条例のほうを議決いただきましたので、これで規則をお認めいただければ、なるべく早い段階に、条件をつけて公募をかけて手を挙げた方を指定管理者等の選定審査委員会という、有識者の皆さんで構成する組織がございますので、そちらに選定をお願いして決定していきたいと考えております。



**碓井教育長職務代理人** 運営を行政ではなくて指定管理者にするメリットというか狙いは、どんな点があるのか。それから、行政ではなくて指定管理者にした場合の使い方、利用料等大きく変わってくるのかどうか、その辺のところを分かりましたらお願いします。

**田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長）** まず、目的でございますが、行政が運営した場合に、人、管理人を雇って職員として配置をして、管理をしていただいております。ただ、直接的な人件費なものですから最低限の、行政としては管理人を置いて、その管理人の方が管理できる範囲で今まで運営をしてきております。

例えば今年度で行きますと、コロナ明けで宿泊を何年ぶりに再開はしましたが、管理人をお願いしておりました老夫婦の方に、今日チェックインして明日チェックアウトするから2時間で片付けてベッドメイキングをして掃除をして、また翌日受け入れてくださいというのは現実的に難しいです。受け入れも制限をかけたり、管理人が管理できる範囲で運営してきたのが現状でございます。

ただ、今度民間事業者をお願いすることによって、指定管理者制度は収益を上げてはいけないという制度ではございませんので、民間事業者は自分の出来得る範囲で、人を今までの3倍入れて毎日稼働させようとか、そういった運営も可能になってまいります。施設の有効活用という部分では、使っていただければいただいたほど、行政サービスとして成果が出ると考えておりますので、そういった稼働率の向上等を目的に今回指定管理者制度を導入するものでございます。

それに併せまして先般、条例を議決いただいておりますが、今まで大変安価で1,500円程度で宿泊できる施設としてまいりました。ただ、実際かかっているコストというのは、人件費を含めた電気、水道だとかそれぞれ消防設備の点検等がかかっている費用を、コロナ前の利用状況、年間1,500人ほど宿泊をしていた人数で割ったとき、1人当たり大体3,000円のコストがかかっておりました。

今回は、条例改正の際に、この実費分を利用する方に御負担いただくという考えで、料金を大体2倍くらいに値上げしております。そのほかにつきましては大きな見直し等は行わず、これまでどおり青少年の体験学習施設、また生涯学習の推進の場として活用するという目的のまま運用をしていきたいと考えています。

**赤羽教育長** よろしいでしょうか。

**碓井教育長職務代理人** ありがとうございます。

**赤羽教育長** そのほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

では、ありがとうございます。それでは、この件に関しまして採決したいと思います。

議事第1号につきましては、原案のとおり決することよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

**赤羽教育長** 異議なしと認め、原案のとおり決することといたしました。

それでは、次に進みたいと思います。

## ○議事第2号 学校職員の指導上の措置について〈非公開〉

**赤羽教育長** 議事第2号は個人情報を含むため、非公開としたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**赤羽教育長** 異議なしと認め、非公開といたします。傍聴者の確認ですが、おりません。続けてお願いしたいと思います。

<非公開部分削除>

## 5 閉会

**赤羽教育長** それでは、以上をもちまして 12 月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後 3 時 11 分に閉会する。

以上

令和6年1月25日

署 名

教 育 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

委 員

---

記 録 職 員 教 育 総 務 課  
教 育 企 画 係 長

---